

令和 6 年度事業報告書（案）

おひさまこども園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 安定したこども園の運営体制の構築

①外部環境

幼稚園と保育所の機能を併せ持ち地域の子育て支援も行う幼保連携型認定こども園として 4 年経過し、さらに質の高い乳幼児教育・保育の質の向上、また地域に根差した施設としての役割が求められ、そのためには安定した園運営が不可欠です。

②重点課題に対する取り組み

・環境（人的環境・物的環境）を通して子どもの発達を保障する保育（見守る保育）の理論と実践を学ぶ研修においては、今年のテーマを「つなげる」とし、園内での人と人とのつながり、異年齢のつながり、自然事象のつながり、地域とのつながりなどに焦点をあて、そこから活動をひろげることで子どもたちの育ってほしい 10 の姿を意識し、保育に取り組むことができました。

・地域の子育て支援事業については、年間計画を立て、ホームページやインスタグラム、園だよりの回覧板を通して地域へ呼びかけ、毎回 3～6 組の親子の参加があり、本園の取り組みを体験していただく機会となりました。

・安定した園運営には、保育を支える職員一人ひとりの専門性の向上、また、人事考課をもとにしたマネジメント体制の構築が必要であり、リーダー職員が新人職員を育てる体制にも様々な工夫をしていますが、現在 1 年目～4 年目の新卒職員（8 名）は、一人の退職もなく、やりがいを持ち業務に尽力しています。

(2) 発達障害、情緒障害のある児童に対する支援体制の強化

①外部環境

発達障害の特性を持つ子どもの増加により、一人ひとりに応じた細やかな支援が必要になりますが、園内だけでは保護者を含めた対応が難しいことが多く、専門家や専門機関とのより深い連携が必要です。

②重点課題に対する取り組み

・谷山病院のケースワーカーと連携し、支援の必要な子どもや保護者について谷山病院でのケース検討会に参加することによって、専門家の助言を受けながら、保護者対応に活かしました。

・言語聴覚士の定期的な訪問による園児の行動観察を行い、その後担当保育教諭とのカンファレンス時に子どもの特性や具体的な対応方法について助言を受け、保育の実践に取り入れることができました。

(3) 医療的ケア児等の受け入れ態勢の構築

①外部環境

・令和 5 年度より鹿児島市でも医療的ケアが必要な子ども（医療的ケア児）も、健常児と同じように保育園・認定こども園での受け入れが本格化してきており、本園でも 1 名（1 歳児）を令和 6 年度 6 月より受け入れました。

②重点課題に対する取り組み

・看護師が中心となり、保育教諭や栄養士と連携をとり、医療的ケア児が園で安心安全に過ごせるような体制を構築しました。特に食事面での問題点が多く上がり、そのたびに関係者を含めて意思疎通を図ってきました。

・訪問看護師、療育事業所、言語聴覚士、医療的ケア児等支援センター所長、保護者、本園職員（時に市立病院医師・看護師）が一堂に会し、本園医療的ケア児の状況やこれからについて意思疎通を図る連絡会を年4回定期的に実施することができました。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数) 定員 123 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	3人	11人	12人	13人	11人	12人	62人
女児	7人	11人	11人	10人	12人	8人	59人
計	10人	22人	23人	23人	23人	20人	121人
	(13人)	(23人)	(22人)	(25人)	(21人)	(15人)	(119人)
割合	8.3%	18.2%	19.0%	19.0%	19.0%	16.5%	100.0%

()は前年度実績

※0歳児については、育児休暇明けの入所が月毎に増え一年を通して変動がありました。

(他の年齢は年間を通じほぼ一定数)

(0歳児月別在籍数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	1人	2人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	33人
女児	6人	6人	7人	7人	7人	7人	7人	7人	8人	8人	9人	10人	89人
計	7人	8人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	11人	11人	12人	13人	122人
	(6人)	(6人)	(12人)	(12人)	(14人)	(13人)	(14人)	(14人)	(14人)	(15人)	(15人)	(16人)	(151人)

()は前年度実績

(年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R5年度	151人	279人	260人	300人	254人	182人	1,426人
R6年度	122人	262人	281人	273人	271人	244人	1,453人
前年比	-29人	-17人	+21人	-27人	+17人	+62人	+27人
	81%	94%	108%	91%	107%	134%	102%

(2) 保育事業

	保育計画	実 践	反省・課題
0 歳児	- 一人ひとりの生活リズムを大切にしながら生理的欲求を満たし、愛着形成の元、安心して過ごせるようにする。 - 衛生的で温かい環境の元で、健康に過ごせるようにし、情緒の安定を図る。	1 歳児と一緒に生活する中で、同年齢同士や 1 歳児との関わりなど子ども同士の関係性を持てるようにした。 - 子どもたちの発達を保障する環境を意識して整えた。特に自然を意識し、自然と触れ合える機会を多く持った。	一人ひとりの欲求を満たしながらゆったりとした生活リズムを心掛け、その中で生活の場に応じて、1 歳児との関わりを取り入れることで子ども同士の刺激が大きく、見て真似ながら成長に関わることができた。
1 歳児	- 安心できる保育者との関わりや自ら活動したくなるような環境の中で過ごし、基本的な生活習慣を獲得しようと意欲を持つ。 - 戸外遊びを多く取り入れ、自然との関わりの中で興味・関心を広げる。	一人ひとりが十分な活動ができるようにできるだけ戸外での活動を多く取り入れた。子どもたちの歩行が安定してくると、積極的に階段を使用して 2 階リズム室へ移動するなど、身体を十分に動かす活動を取り入れた。	子どもたち一人ひとりの発達を理解し、意欲を高めるための活動を工夫した。特に自然を意識して触れ合える活動を多く持ったことで、探求心の基盤となる意欲の育ちが見られた。
2 歳児	- 基本的な生活習慣を身に付け、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 - 自由に活動できる安全な環境の中で友だちと関わって楽しく遊ぶ。	- 基本的な生活習慣が身に付くような援助や自分でやってみようとする意欲を高める為、子どもがわかりやすい動線づくりや環境の工夫に努めた。 - 自然物への関わりのお機会も多く持つことで、子どもたちの個性へとつながっていった。	戸外での活動や園外活動（散歩）、大きい組との交流を多く持つことで、子どもたちの興味関心の幅も広がり、また、年長者の真似をしながら自分からやってみようとする姿が多く見られた。
3 歳児	- さまざまな体験を通し、いろいろな物事に興味や関心を持ち、自主性を育てる。 - 保育者や友だちとの関わりの中で、安心感を持って遊びや活動に取り組む。	- 基本的な生活習慣を身につけるとともに当番活動に参加し、意欲を持てるようにするための保育の工夫を行った。 - 体を動かし、自然と触れることを楽しめるような戸外あそびや園外保育を多く実施した。	進級時には戸惑った姿も見られたが、年上の友だちとペアになって当番活動をしたり、各ゾーンでいろいろ教えてもらったりしながら、大きい組での遊びを体験することで生活の仕方も学んでいくことができた。
4 歳児	自分の思いだけでなく、相手の気持ちを考えたり感じたりしながら人間関係を深め、集団としての行動ができるようにする。	- 様々な当番活動に取り組みながら年上の子から教えてもらったり、年下の子に対しての興味関心が高まりお世話したりすることの喜びを感じていた。 - 力を合わせることを楽しむ遊びや活動を多く経験した。	- 年長児と組みながら当番活動をすることで、真似ることから身につけられるように工夫した。 - 友だち間でのトラブルも時々見られたので、友だちの思いに気づき、自分で考えられるような環境の工夫や関わりに留意した。
5 歳児	- 人との関わりの中で、社会生活に必要な態度(社会性)や基本的な生活習慣を身に付け、自主性を育てる。 - 自分の思いを言葉で表現したり、友だちの思いを認めたりしてその思いを大切にしながら生活や遊びに取り組む。	- 就学に備えた基本的な生活習慣を身につけ自立できるような援助を行い、子どもたちが主体的に生活・遊びができるような環境設定を行った。 - 人との関りを大切にすることから、01 歳児クラスへの手伝いには多く参加し、食事の世話や玩具の消毒等や手洗いの補助等の活動も体験し、貢献する喜びにつながるような工夫をしていった。	- 行事の計画や実施等様々な活動を自分たちの力で組み立て実行する経験が自信につながっていった。 - 後半は気になる子どもの突発的な動きが激しくなってきたが、子どもたちがその子どものことを理解し、受け止めたり受け流したりしながら一緒に活動をすることを喜び、クラスとしての成長を感じることもできた。

(3) 給食事業

主な計画	実 践	反省・課題
・献立の立案 ・給食検討会の実施 ・嗜好調査の実施 ・食育の年間計画立案 ・アレルギー除去食の提供 ・共食の実施	・地産池消を取り入れ、地域の特産を生かして料理や食材の旬を生かして料理を味わえるような献立を工夫した。 ・幼児食の他に離乳食の献立を成長に応じて作成した。(初期・中期・後期) ・毎月1回栄養士・保育教諭・管理職で会議を開き、喫食状況や食への子どもの意識、食の場の環境について話し合った。 ・園での食育への取り組みが家庭でどのように反映されているか家庭での食生活の調査をし、家庭での様子を知ることにより、食事や健康面での情報を提供し、献立に反映させた。 ・年間計画に伴いおひさま農園で野菜作りや収穫を行ったり、調理前の旬の食材に触れたり食べたりすることで、季節感を味わった。さつまいもの収穫後、焼き芋大会にもつなげた。 ・クッキングも多く取り入れ、作って食べる楽しさも味わえた。 ・アレルギーを持つ子どもへ代替メニューの提供と配膳トレーの分別を行った。 ・5歳児が、01歳児と月2回一緒に食事をしたり、2歳児のバイキングの配膳後一緒に食事をすることにより、食事の介助をしたり交流を持ったりする共食を実施した。	・咀嚼や嚥む力などの発達を考え、素材や調理法を工夫した献立を取り入れることができていた。 ・全クラスの子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善を図った。 ・給食や食育への取り組みに対しての感想・意見等もたくさんいただき、励みにもなった。 ・子どもが取り組む野菜の種まきや収穫の様子などを月毎の食育体験として掲示したり、園だよりやホームページ・Instagramで知らせたりして、園の食育の認知を図った。 ・離乳食・アレルギー食の子どもの把握、メニューについて保育教諭と栄養士・調理員で周知徹底し連携をとることで、誤飲誤食を防止できた。 ・5歳児が未満児のお世話をしながら食事をする共食は、食事前後の時間の交流もでき、未満児にとっても年長児にとってもいい体験になった。

(4) 地域交流事業

	事業名	実 践	反省・課題
5月 7月 9月 10月 2月	世代間交流事業	・愛と結の街の方々との交流 ・七夕飾りの交換 ・ディサービスでの交流 ・歌・紙芝居の読み聞かせの交流	・両施設の状況の連携を取りながら直接の交流を5回実施することができた。子どもたちのダンスや歌で、お年寄りの笑顔をたくさんみることができ、またお年寄りに読み聞かせもしていただき、子どもたちもとて喜ぶなど、いい交流ができた。
年間 6回	育児支援事業	・園での子育て支援として、年間を通して6回の計画をし、園庭解放や人形劇、「やきいも大会」や「地域の遊びの達人との遊び」を取り入れ、在園児とともに楽しめるようにした。	・HPやInstagram・町内会への回覧板など、広報を工夫することで参加者が徐々に増えてきた。参加者には喜んで頂けたので、また内容を工夫しながら、もっと多くの方に参加していただけるように工夫していきたい。
6月 8月	異年齢児交流事業	・運動会での小学生種目参加や、1年生になった卒園児の一日保育士など、異年齢児との交流事業を実施した。	・成長した子どもたちに会え、その成長ぶりを実感できたことがうれしかった。 ・一緒に生活していた在園児もとて嬉しそうで、いい交流ができた。

(5) 幼児保育相談事業

日 時	内 容	対応・反省
R6 5月29日(水) R6 8月29日(木) R6 12月5日(木) R7 2月25日(火) 年間 6回	◎(言語聴覚士 西野先生訪問相談)・午前10時～12時園児の行動観察をして頂き、13時～14時に各クラス別に担任保育教諭を交えて、カンファレンスを行う。 1回につき、4～5名園児について年間4回実施した。 ◎谷山病院とのケース検討会 支援の必要な子ども・親への対応について、相談事項の書類を提出した後、谷山病院のケース検討会に毎回保育教諭が2～3名出席した。	・言語聴覚士における発達が気になる子どもの観察を通して、子どもの特性や対応について具体的な方法を学べた。また、保護者への発達相談につなげることもできた。 ・谷山病院のケース検討会に直接参加することで、さまざまな専門的な立場からの助言を頂き、特に保護者の見方や対応の仕方についての学びになった。

(6) 実習受け入れ

学校名・人数	実習期間	日数	目 的
東谷山中学校3年生5名	R6/5/21～5/23	3日間	職場体験
鹿児島中央看護専門学校 19名	R6/6/26～9/27	2日間	小児看護学実習
鹿児島大学医学部医学科4年 7名	R6/6/28～7/19	2日間	小児科学実習
さんさんすまいる 12名	R6/7/10～8/20	2日間	職員研修
鹿児島女子高 2年	R6/7/19～7/11	3日間	職場体験
鹿児島純心女子短期大学1年1名	R7/2/5～2/18	11日間	保育実習

3. 苦情・相談

計 画	内 容	対応・反省
・保護者からの相談・苦情を広く受け付けるために、日々の連絡帳や苦情箱から苦情をひろいあげ、HP上に公開する。 ・相談苦情解決責任者・受付担当者・第三者委員を決定し、公表する。 ・保護者には入所時また保護者懇談会時に「相談苦情申出窓口」についての紹介を行う。	・子ども同士のトラブルに対する双方の保護者への対応について ・駐車場の混雑について	対応した職員が状況の確認を取った後、副園長・園長が保護者と話をし、不安や心配をかけてしまったことを謝罪した上で、改善していくことを伝えた。また、園の対応の方向性について、職員にも周知し、対応する職員が同じ対応になるように共通意識を高めた。

4. 防災訓練

計 画	実 施 内 容	反省・課題
◎毎月、防災・避難訓練を行う ・毎月消火訓練も行う ・年2回脇田分遣隊立ち合いの訓練を実施	◎毎月、防災・避難訓練を行う ・火災避難訓練(年5回) (脇田分遣隊2回) (第二避難所まで避難1回) ・地震避難訓練(年4回) ・津波避難訓練(第三避難所まで避難1回) ・台風避難訓練 ・不審者避難訓練 (市安心安全課の指導派遣有り)	・脇田分遣隊立ち合いの避難訓練を実施し、アドバイスをもらう。 ・地震時には防災頭巾を使用した訓練を実施(園児) ・職員用の防災頭巾も購入し、使用した避難訓練も実施 ・避難用滑り台での訓練も実施し、非常時には滑り台と階段の二手に分かれての避難もできる

◎月3回安全点検（園舎・園庭）を行う	◎月3回園内の安全点検（保育教諭2名1組で実施） ・安全点検のマニュアルに沿って	ように日頃から心掛けておく。
◎災害用品の購入	◎防災・災害用品購入 ・避難用食料・水保存倉庫 ・避難用カート3台 ・非常時食品	・避難時に食料・水をすぐ取りに行けるように、玄関横に倉庫を設置した。
◎保護者へ避難所の提示	◎重要事項説明書・入園しおりに記載・入園説明会にて説明	・毎月、看護師によるAEDの点検を実施。地域の人たちにもAEDを常設している場所として知らせていく。

5、会議及び研修

(1) 研修計画（園内）

主な計画	実 践	反省・課題
◎園内研修	・一円対話・クラスミーティング、全体研修を交代に月ごとに1回ずつ繰り返し、いろんな面から保育の質を高める研修をすすめる。（一円対話はFT5人が担当）（年4回） ・全体職員研修を4月・12月・2月に実施（職員を経験年数で3グループに分け、主催者として交代で園内研修を組み立てた） ・子どもの発達・障害児対応について、言語聴覚士の西野先生の講話（7/20）	・一円対話での聞く姿勢や共感力を、チーム内や園全体でのコミュニケーションにつながるように継続し続けたことで、クラスミーティングでも話しやすい環境づくりを一人ひとりが心掛けているように見受けられる。 ・担当回になった職員で何度も話し合いを持ち、園内研修を組み立て当日の司会まで担当したが、参加する側も全員が主体的に参加し、全体での連携も深め、楽しめるような研修が実施できた。また係で振り返りも行い次年度の課題に繋げることができた。 ・定期的に幼児保育相談に来ていただいている西野先生の障害児への対応について具体的な話を職員がみんな聞きたいという要望があり、園内研修として実施した。来年度以降も継続して、学びを深めたい。
◎見守る保育（こども主体の保育）研修	○藤森先生講演会（4月） ○環境セミナー参加（7月・9月） ○研修園見学、見学者受け入れ ○臥竜塾（有志）年10回参加 オンライン 18:00～19:00	・「子ども主体保育」の具体的方法論の講話を4月は原点にもどるため、同じ保育を勉強している10ヶ園が集まり講演会を実施。その後、東京の新宿せいがこども園の見学も含むセミナーに2名ずつ参加して、見学したものを園に持ち帰り、園内の環境づくりに活かした。 ・同じ学びを進めている園の見学をさせていただいたり、本園が見学者を受け入れたり、またオンラインで全国の実践発表を視聴することにより、学びを深めた。

(2) 会議

会議名	回 数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12回	240名	翌月の行事・研修・共通理解 各クラスより問題提起	園長・副園長・保育教諭・栄養士・主幹・事務
危機管理会議	12回	96名	毎月の事故状況・発生防止策	園長・副園長・主幹・保育教諭
給食検討会	12回	72名	喫食状況・献立、食育検討	園長・副園長・栄養士・保育教諭
担当者会議	不定期	80名	行事等の準備・計画・実施	各担当者
管理者会議	6回	30名	理念の確認・園内状況の把握・	園長・副園長・主幹等3名
リーダー会議	6回	48名	理念の確認・チームの連携 各チームの報告・相談	主幹等3名・チームリーダー

6. 年間行事報告

毎月の行事	実 践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせて実施。毎月、年長児2名と保育教諭2名が担当者となり、内容・準備物について話し合い、年長児が司会をするなど子ども主体となって実施した。	・全体の行事をリズム室で行うため、初めころはざわついたり、子どもが移動したりと落ち着かない雰囲気だったが、子どもたちが司会をしていることと、それぞれの子どもたちが成長していることにより、自ら参加する姿勢を身につけていくことができた。
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力を訓練する機会を多く持つようにした。	・第二、第三避難所までの避難も実施した。昨年度実施された地域での避難訓練、話し合いが実施できずに残念であった。
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、毎月3回担当保育教諭2名が点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。修繕箇所が年々増えているので計画的な対応が必要である。
一日保育士	・全クラスで保護者各1名を限定に再開した。(10時～12時30分頃までクラスで親子一緒にクラスで活動)	・ほとんどの保護者が参加し、園での生活を親子で体験することをととても喜ばれていた。

月	主な計画	実 践	反省・課題
4月	進級式	・4月1日に在園児の進級式を行い、4月の誕生会では新入園児を紹介し、入園を祝った。	・3月より新体制で保育を行っているが、4月1日に改めて行うことで、新しい担任も認識し、進級した実感がわいたようだった。
5月	交通安全教室 保護者懇談会	・ヤマト運輸の方に来ていただいて交通安全教室を実施した。 ・0～2歳児クラス、3～5歳児クラスの2回に分けて懇談会を実施。パワーポイント等の動画を使って、園の取り組みや理念、各クラスでの保育のねらいや現在の子どもの姿について伝えた。	・業者の方や大きなぬいぐるみが珍しく、子どもたちも興味津々で楽しく交通安全教室が実施できた。 ・コロナ以降、5年ぶりの集合型の保護者懇談会であったが、ほとんどの保護者の方が参加し、園の保育の取り組みや園への理解を深めていただけた。
6月	健康診断 歯科検診 運動会	・予定通り実施できた。 ・2歳児以上保護者2名までの制限をつけて午前中で終わるように実施した。年長児が様々な係を担い、子ども主体の運動会を実施した。	・密を避け、風通しの良いところで実施した。 ・2歳児から参加種目が終わり次第に親子で降園となったため、密になることもなく、競技を楽しむことができた。
7月	プール遊び開始 七夕まつり	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7月～8月)	・安全が保持できることを第一にし、保育教諭で連携を取りながら実施することができた。(人数、水温、気温の確認) ・必ず水面の監視員一人を置き、監視体制を整える中で実施した。
8月	夏まつり	・年長児を中心に夏祭りの計画を立てて準備をし、全園児を招待するミニ夏まつりを保育中に実施した。	・年長児が考えたゲームについて年中児・年少児も保育活動中に一緒に準備することで意欲をもって活動することができた。
9月	十五夜	・誕生会と合わせて十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、つなひきを実施し、日本の文化に触れることができた。	・おひさま農園で収穫した里芋もお供えて飾り、十五夜の意味を各クラスで伝えた後、怪我がないように綱引きを楽しんだ。
10月	秋の親子遠足 ハロウィン大会	・平川動物園での実施予定であったが、雨天のため園内遠足(子どものみ)に変更。 ・ハロウィンの変装をして「ディサードレスあしたの風」を訪問し、お年寄りと交流した。	・園内でも子どもたちが楽しめるように、どこでも探検して食事ができるようにした。 ・初めての試みで打ち合わせ等も実施し、楽しい交流ができた。次年度もお願いしたい。

1 1 月	発表会 おいもほり 焼き芋大会	・各年齢の子どもたちが無理をせず、発達に応じた表現する姿を保護者の前で堂々と披露することができた。 ・おひさま農園で育てていたサツマイモの芋ほりを実施し、2週間後に園庭で焼き芋大会を実施した。	・クラスごとに時間をずらし、2日間に分けて実施した。0～1歳児においては普段の姿を見て欲しいという思いで、保護者と一緒に体験型の発表会となったが、子どもの成長を直に感じられて保護者も嬉しそうだった。 ・おひさま農園のお芋を収穫後、園庭で薪や落ち葉を使った焼き芋大会を行った。下準備から焼いている時の見守り、食べるまでを体験することで、自然に歌を歌いだすなどわくわくした表情がたくさん見られた。
1 2 月	クリスマス会	・職員の家族がサンタクロースに変装し、子どもたちにプレゼントを渡してもらった。	・一クラスずつ、リズム室でプレゼントをもらうことで、サンタクロースとのやり取りも楽しんでた。
1 月	七草	・春の七草、由来を話した上で給食の七草粥をいただく。	・七草の由来を丁寧えることで、給食中も七草に興味を示し、友達同士で会話もひろがっていた。
2 月	節分の行事	・年長児が準備・計画し、小さい組は保育室で、3歳児以上はリズム室で節分の豆まきを楽しんだ。	・年長児がどのような節分にするか話し合い、計画を立て、準備を進めていった。子どもたちで計画・役割分担を話し合い実施した企画であり、怖がる子どもに寄り添い慰める役の子どもたちもいて、成長を感じた。
3 月	ひなまつりの行事	・リズム室に飾ってある雛人形を囲んで実施。	・ひな祭りへの興味を深める手立てが出来ていた。
	お楽しみ遠足	・近くの笹貫公園まで2歳以上の子どもたちがから歩いて参加した。1歳児は散歩車に乗って参加した。	・昨年度の反省を踏まえて、公園を変更する。下見をして危険箇所も周知しており、年長児の考えたゲームを実施しながら連携もスムーズにいき、子どもたちは存分に楽しむことができた。
	電車遠足	・年長児のみ貸し切り電車を利用して水族館へ遠足に行った。帰りは「かんまちあ」でお弁当を食べ、たくさん身体を動かして遊んだ。	・水族館という公共の場でもルールを守って楽しむことができ、貸し切り電車では特別感を大いに味わうことができていた。
	入園説明会	・兄弟組は別日に設定したため、一度に9組だったが、ゆったりとリズム室で実施することができた。	・ご協力保育により多くの職員が参加できたため、個別面談も一斉に実施することができた。
	お別れ会	・のびのび組が会場の飾りを作ったり、いきいき組がフルーチェを作ってもてなしたりするなど、大きい組の子どもがお別れ会を盛り上げてくれた。	・大きい組の職員・子どもたちが役割分担をし、どの子も年長組のために準備を進めたお別れ会となったが、送る側も送られる側も嬉しそうな表情が印象的であった。
	卒園式	・職員の準備や子どもたちの作品に加えて、保護者の方々も園や職員への思いを言葉や写真に込めた掲示物を会場前に飾ってくださり、感謝の気持ちを伝えあう卒園式となった。	・自分たちが主役という自信に年長児の表情は輝いており、涙あり笑顔ありの心のこもった卒園式を実施できた。保護者の方の準備も大変だと思ったが、たくさんの方が連携をとりながら卒園式を彩ってくださった。

7. 設備計画

月 日	工事名 ・ 品名	内 容
R6. 6 月 21 日	検食用冷凍庫	修理をしても温度－20℃を保てなくなったため、買い替え（老朽化）
R6. 6 月 1 日	厨房・2歳保育室・職員休憩室空調機器入れ替え工事	設置して16年～18年経過した空調機器であったため、故障も多く、老朽化のため入れ替え
R6. 11 月 26 日	事務用デスクトップ PC	老朽化と Windows11 に対応出来るようにするため、入れ替え
R7. 2 月 10 日	ヨーグルトフロピー	故障により作動せず、入れ替え （製造中止の機器だったため、修理も不可能）
R7. 3 月 5 日	業務用コンロ	園舎設立時（平成10年）より使用し続けたコンロで調子が悪く、作業に支障をきたし始めた為、入れ替え
R7. 3 月 31 日	園長用デスクトップ PC	老朽化と Windows11 に対応できるようにするため入れ替え

8. 職員管理

- (1) 入職者 正規職員 2 名（保育教諭 1 名 看護師 1 名 ）
 非常勤職員 4 名（保育教諭 1 名 調理員 1 名 保育補助 1 名 施設係 1 名 ）
- (2) 退職者 非常勤職員 2 名（保育教諭 2 名）
- (3) 病休職員 非常勤職員 1 名（保育教諭 1 名）

- (4) 職員体制（令和 7 年 3 月 31 日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園 長	1 名		1		
副園長	1 名	1			
主幹保育教諭	2 名	2			
保育教諭	23 名	11	3	9	
看護師	2 名	2			
栄養士	2 名	2			
調理員	3 名		1	2	
事務員	1 名	1			
施設係・保育補助	2 名			2	
計	37 名	19	5	13	